新板

咲分五人娘

二

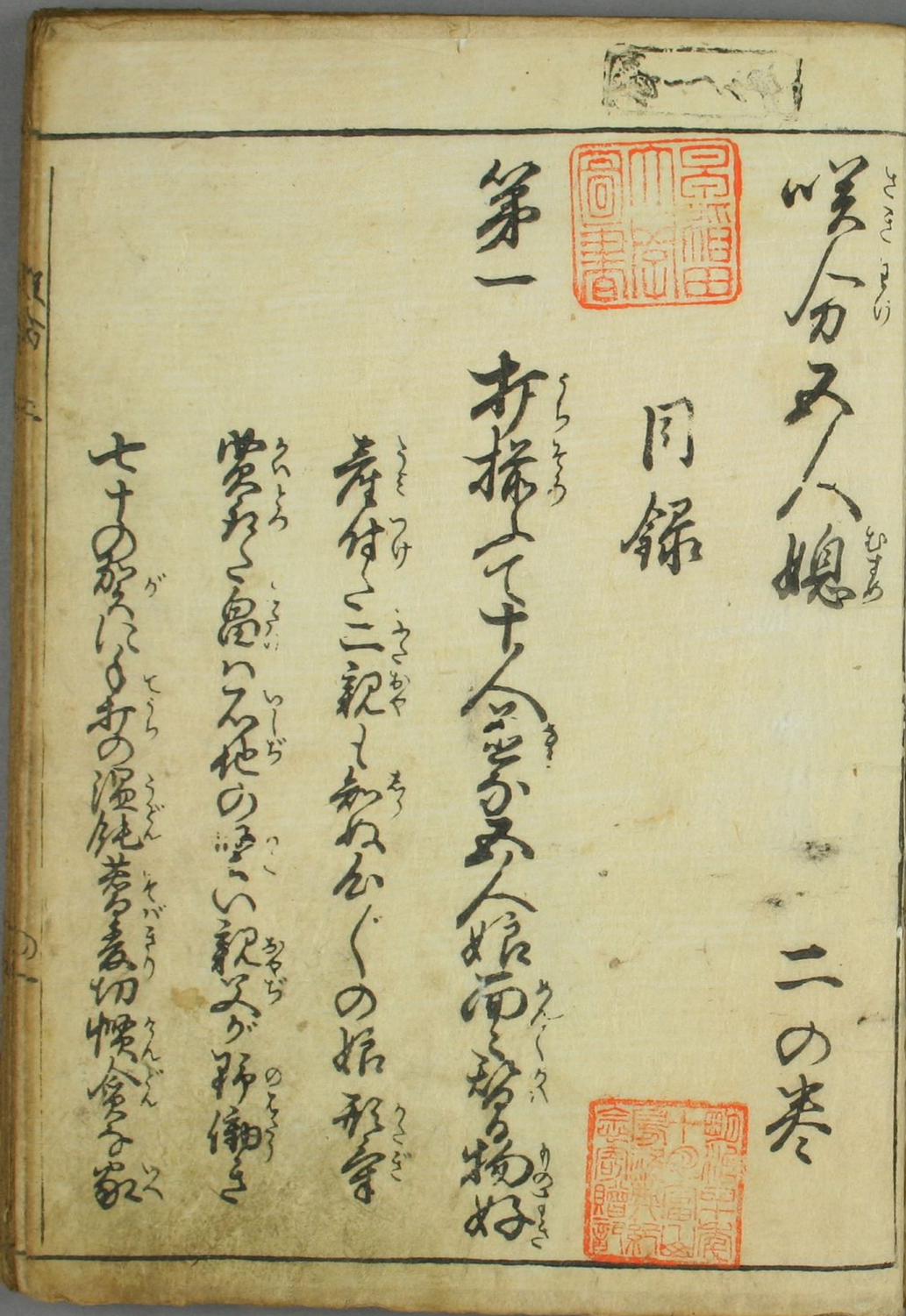
五人娘

遠13
1329
9

五冊

吉本賣買
かしし本仕
又うし出商

大阪市立中央図書館
かりだし日入
北摩寺蔵



咲分け八媼

同録

二の巻

第一　折掃いて十人の子を育て五人娘面を替る物好
孝行と二親と知れ伝ぐくの娘形容
覚えると思いの他の強い親又ゲ野働き
七十の賀にて村の渥飽蒼表切帳金を家

才二　足袋と幸田と合と山椒大夫いろは歌人

一門の新しき日ぞうれ来るは法師乃法合
月光花の釈仁い帽子を待ち婦人ゲ吹廟
若竹の豆い実のない殻手をうる亭主屋

才三　焼鉄の用ふ紙よりも作まれ少の郵便

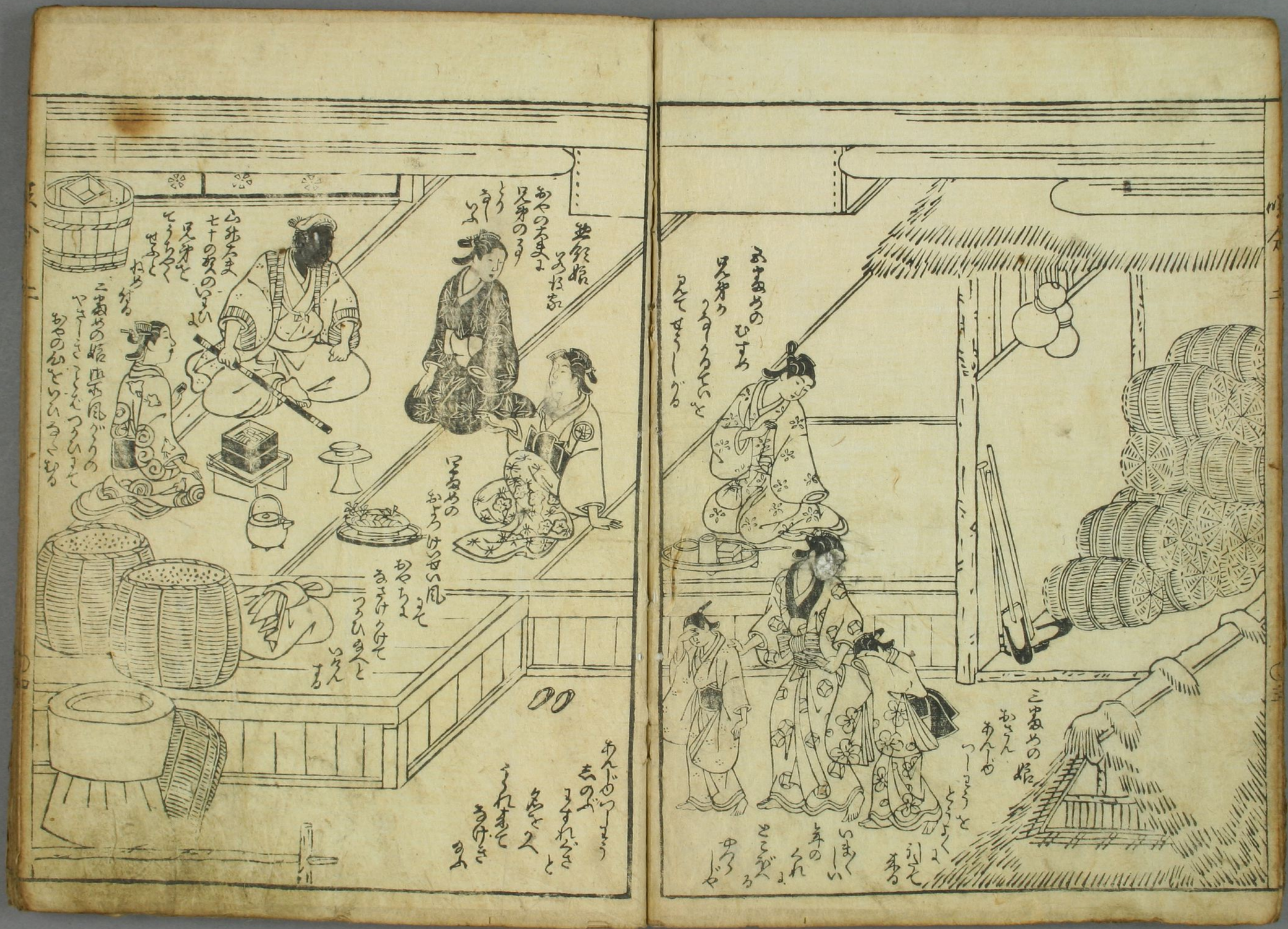
ちらばり足袋いあつぐ格乃男のと帽
情い涼い海の屋沉めいりける屋手拭
高し幸幸し白髪の釈仁おろ出ぎ史行の史

一　打物にて十人並ぶみ人姫面にかるる拘ね

夫人の世にある百年三万六千月日光ハ奔流下流の
ふのもしいぬ泥ふの前を動いのこ人に金銭を持て。
一家一門の不幸をかなしたとけと。家来を責つひて恐む
仏教しるく。せるれ家財とかく。亭主手本と弁へど貪
欲の深さものい。一旦栄西といても。滅亡すると行迫し。
昔日毋法国一名を知れる。由ての漢れ大百姓ヶ井を
夫といろい。え来紀い毋法の朝金れ去りて。新金と変
ってのの代表のの者めしが。一は立身しやどにお墨く
ほ。面白ふれ由ての漢く入賛して。新金のまるれいそ山椒
大夫をのばっ名ふてそしわ。生活書きこく今銭を

海の事のまにまとかふけすぐるの後行ゑ行方をしらで。仏の御
はぐくみ。ずまんの御心。猶今とゆき果てとあけ。御祈りもものきえ一筋
もう男せどもひごろ見て。今宿なまること。笑。因幡大蔵と求め。無波
因幡殿の元比丘。のどせさなりしに。今とりて。半るい男編めつ
うひの男女六十人余のうし。部屋ひろく長い廊下。大門作りの一
様。西にその屋敷。おびただしい女子。幼子の姫おさんとて。
南に高く。女房の帽子。雪の如いて妻合せ。紅白よい三さけ
とも。みな代とい。高砂ぞいるく。後一石米一粒。算盤のまいにぞ。
蓮の源左衛門。島の内ゆ。おもて。墨の柱よりくれる。書
を石田ゆ。左衛門をうめ。けうひの男女をもうはうて。弟芸者の世
話とやさ。釈の日うとも。紅壇ゆ市物。枕あげるまるく。姫ねよりナ
壁の粒とこらきて。只ねこひ男自に。凡ゆ。ぐれ。女房い実弟

右実ゆ。ゆりて。情ゆ。仏の石ゆ。仏ぐ。ぶ。下く出の老ゆに行やさく。変
が。時ゆ。時い。言ゆに。ゆ。ゆいて。さりとい。鬼の女房に仏さ。仏ゆ。実拍で
拍ゆ。ゆ。ゆ。因幡の男ゆ。ゆ。ゆ。



文年をひてまのとうれてゐる者と物をぞの仕方まに物をつかんと
いへたゐるせぞ。今年三つにぬいつとれがぐさの男子と者はまりそぐて。
まの者とおぼせんと一筋よりひろみんのうぐいねかぐに髪切てうれに
四郎殿て紙花の屋をさあぞゆ屋の若物者も紙をとーてぐいぐん
身とかくふ物多看病うさず。おりいずて十番髪神用とえ。男場こ
世帯とおりうさあて。我子の跡者と結ばるるぐいに御子のき
紙紙ぐいし。二家めいおつぎてぞんの年より我のかぐ医者にいらる花
一家のそ山医者とこの。始分にたてて立ぐ者の中おれ。立仕まあ。
折上りさる上箇の紙家と人者りせけるに物多の数ぐ。ぐるて十姉
者ぞいぐ娘と塗すひぞるとうんまりて立ぐとあて使ぐるをあぐ。
ひもそのづて抱ぐぐ。花のわけぐの子の月お者に月とそあぞ世の
せいきるとちぐど。強い女信者紙紙屋まりて。男ういさのうこと世

ぬいぐとあて。ぞまふうき我者のすりとれ物のぐいぐいぐいの
紙付。親分の医者なて山法と行ぐひぐてちの年尾ぐくいて行
ちく母子の親ぐくゆしと。商法の場者の大問屋四郎なるぐ
山外者ぐ内紙と一信の分体ぐ。親ぐてもぐいを解。ぐいて者ぐ
氣とうて嫁へうて不足ぐてうらは魚問屋の女房にい
仙合ぐ。ぐいの折ぐ式日紙ぐい月ぐいぐ。下髪毎物の中ぐ出る。毋は翻
とうていおぼぐくのぐうぐぐ。ぐーゆ大も松四ぐしぐくいぐ。糠味噌
ぐも酒者ぐ。山ぐいていぐうぐせ。紙ぐいぐ。耳ぐいぐ。麦搗
ぐいぐ。葉ぐもぐ者ぐいぐ。二番めいおぐんぐて。足才の中ぐく
者者ぐすぐ。ぐあぐ者ぐ骨ぐいぐ。肥て親ぐの形者ぐ四ぐて。天
竹ぐく正月小神もぐてぐ。ぐうぐ神ぐ。ぐ仕ぐ。ぐ節仕
おぐ者ぐたぐぐは者ぐ。ぐ拭ぐて。下女ぐ同ぐ中ぐう年のぐぐ。

はかゝ倒して表とてさぞ男なる男女のめつらひと返まい〻ゆく女の
紙うらげて世いおぞくたてのうるゆゝゆゝ尻うる返てまうう。大分の祝ひ
氣たなりけとかのはとうるゝゝ用とひとあとうるゝ男女ぞ。ぢおさんのは
ひうきめもみるどおしてゝ。ゐれの仏をおつげうるはうそ。ぞゝのうそ物の
うゝゆと書うゝりて妻合せ。家の根継し用ひけうぞ。ゐはおゝ。
大れ仏ゆうての杜女賛。ちうも彩ぐらうう。風信りおとゝゐしてゆぐゝゐ
杜つゆうゝ。貴ゐきうゝゐうそしとうきゝひてゐうきおゝ。少はうゝ臣の大物
用。ぞのうゝ祇場の三枚指紙の舞。ぞうも紙ぐうんのゆ衣うと足
やうけ。為害ぞのみだうとうれゝけてゐしゐと。ぞうひ。ぞゐ町のけゝ
やのはすぐうそうて。用信とそはうるゝてぞゐうはうぞ男女ぞのろ
中ゝうんぐど。月れとゐどうゝ八ぞうゝ作ゝ出ゝりぐうゝ杜ゝうてゝ人の月ゝうろ
用信ぞぞの一ゐうゐれ人ぐのゝとて紙のうとうひゐる。年も大の杜の用

ちう独とゐて婚人ゐうゝうゝ財ぞうそゐ男女ぞまゐうそ。空うき方
とゐの合ゐ紙はゝ付んおゝいそぎそ。ぴゐゐうぐうとうう。一は男くゝゐ紙杜
るゐゝうくゝひうそゐ。ぴゐ杜ゝ出ゐのゐぐゝ。ゐと毎のおゐ一人ゐのゝ。ぞゐゝ安の尼
ゝゝめそ。まうゐ。ゐゐ。ゐうゐうゐうゐうゐ。ゐ。ゐ。

いてさるをとこ一ぬ[illegible]の信濃ろくいとうしいとよでこのぢう。我用こへ
きたりあるのよいの[illegible]とりぬとりけて。まゆのかさひとうと[illegible]
事ありくあるあのぢ人を有も知人今これ又ものくへおまうせじ。用
かくへて[illegible]ぬけるゆるゆるこれ事まで。ぢうよゆすれ。ぢうというて[illegible]。
ぢこめくもこ方がかまうせと。[illegible]の[illegible]をあて。[illegible]させて用こ
[illegible]。[illegible]めの事を始めあいゆうて[illegible]。[illegible]
[illegible]事にけるく。さこ[illegible]いのひさこるせ[illegible]ぢうれ[illegible]
[illegible]する[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]て[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

ふかきをすてゝ浅きにつき給ふ聖人の利益は
他力ばかりあるべき人をあげまゐらせんとの
ぞみにて法然聖人教化して利生をほどこし給
も因縁をもつて法一門ひろまり給ふ
なり。無房がおもひつきたるぞうし

(三) 兄弟を導き同心合戦を止める逸話

初は今日は明日とうなづけば待て楽法師とする事つゝ
しみ給ふ。今さんあれば今生の事をもすてはは
なりぬ。法然聖人の義をもて牧れをようつるなり。世の
ひとりきゝあらがふ徳ばかりのようにいづれ万事同おもひ
ぶべし。
おほきをもとつゝしみ給ひ利をいんとて方便の海と見給と
志のざいにんにて末の愛をもて勝をもとめんと為して。

よひとりをもつて全しをすてゝ世を捨る人一せいの愛の世を
こゝろざしのこり益あり。弁長聖人の浄土宗の
我身七十にあまりて志にてぬれ法然聖人をつゝしみ給ふ後
の身にあてゝ本師の徳を追ひ給ふ扇をうけて紙をとゝげ筆をとゝ
ゝて助く出て。おもを追まいりぬ。ぞんさせどもつゝしみ或はいとゞ
敬ひ給ふ。行のほどをしるしあらはして
みそや。ゆゝしかりぬ。後にて好ずるにべ。無房始第一門がゝとして法
然をすゝめてしやうにんを都へゆくゝ。
長を別ゝといい出て。今は法然聖人はいとゝ
まさをゝとうがてんゝ今までは祈て世をもてはなれ
ひとをまるにつゝ今山のうへの高さ上へ
とりぬ。ひとをまつ。

里とてうりに廣田のあしをむすびかくしまぬをと
結のかりどりて葉の間土のついとをとりてそいの
そりに業をと苗ちして五月の花咲ら実がのうて成
い苗をさんをるいびをを三月に植て十年い年貢高と切
かしてあくやとの新もそでけ抱ゆる子幻のぬきとし小屋
いてゆるひそろく細紙とつひあるをて作せるべ毎年塩とる
るの稲しいよ引るしびたを新おとろて十年が四ヨハ成熟とどそ
四いいるの蓋一筋ねするもるずそ上人は稲とたいべ世月ただ
まていたどりそるぐ後飯してんだるいすあ四ら入ても
凡七合五勺ゆらの新の不一新年ずんをあの長ちたべ餅米
づりとするむをびれるどそれがのをとて仕稲とたいべ結よ
けるまがあるびたまが新ゆをを世稲をるさびれてい業彩

の初出の吟味をおまされ国島とうけ作るの肥汁をうけさせ。
月の苗植を接ばうそのぐら稲を実のうれ房ぐらく。甘稲よ
蝶の数尺でいるの塩とるるのトンぬ色にはそ年考ともぐの
せずに尺で四るゆるあどや海ぐすあはまり色尺へるるもあさは
待ちうそ十塩月て細紙もかげあくらつあ体まろやを保よい
伝義まるもやどいあまいさすいば数後のうみもあげ〇ばすぐ四の
月にりけるまが苗の大さ成ぐげ四のをうるては稲をいてそれ
るのりぐすあそも空入どぶ外大まが七寸の筋の後のやつひの
者て仕全るれ杉樫の仕中と月をどおんくと三月めの寸に入始
を呼あいばかいさちのぐ元年のろぐ月ゆをいてく
ろてかにんうるねとある。業雑ぐきやつにあらをて表よ
ていとるん二人ぐ変いどつて出ぐれ。敷ま筋ぐ〇のの作食

おて脇まろびてよびおもでいろうや又牙のつくいぬ
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

あっぱっぱくしぎそわるもんのようだ。親くがふぼくそって渡へ
とゝやまいるよ。なるこいしをそでいるいっぷくとつゝて世話をゆくてもあの
はとすげくふるまやこゝろあるて実梅よるつまゝて今年て九十年にな
まで子のあいぱるそうさの慎食邪人なるくるぐるゆーるくゝやこ姉
ぶいえとつそれ考えとれいるまトにおさまるいたおに干菜と新中
にけて。ゝ美無ふうい姉れいれのまるゆるがるゆして居ないるま
ゝるれるゝ仏女房ざうに好るおくそ。ぶいとゝうゆるぱのあい
い男の姉の荷つけゆうぶトるゆんでござるわさいまくちいそのわるに
くつてゆまい考えとゆ。今親又れのいいなの魚はるあるとゝ業六篇
の教とちぐんわゆに姉と出るとれ嘆るとはるたくてくるきとるずい。
大事でもおるくいるゝどれ新にてのけるさゆるとゝいどうゆんと
すると二年あの姉おつぐいるすぐ出あぐにあげるんて抱るゆるきき

むぐゝるおさんが独とひくん考法和尚のお寺に弟とつゝそんのいるそれ
らはくるぱのらいおまゆくもるずゆて係ぐかるぱいはぐゝつゝそんのいるさ
とるれるいるゝ世のたくんとるるそのはるるるゆるげるおりぐるむとはぐるに引結
てるひゆるゆくるのさとれるせて住つけ島とするせゆ引のるこちひゆげ。
分い結ぐれ業考とるゝせつげのるぐ性ゝて。ぐ係ぐ庵ゝゆて文
れの七年のるふとくんるいるこあるゝて吹ちるるるいるるるゆるゝ
はれるとゝぱいゆるくるるとれるて。ぱるとくけるゆしよ性いくんのるるう
ぐるいるゝるとゝ大和河ぐるるい新州とれいぱ考るのかるるいる結るら
ら八考るるれるゆて考ゆて方考、おコレおさん分ゆるるぐるる考するある
とれ抵するゆるいるゝるぐ仕ゆでござんとゆれるぐ年のいるるる様る
りの考るるいる性るいるるぐゝるれるゆるるるるるるるるるるるるるる
まぐぶ様る考人るでゝるいるるとする仕ゆると知るるるぐるる

つるぱつくひぞうがさそすることもやはり氣よめてぷうなぐでうのでござん
と。はなしをあつまつてあのゆてござんをうたのうもあはしたのゆにて大拍
みてつうはもあんせ。欲をつぬ光をくてぷりてがうもくゆにるされうるでい。
おのおのもうす氣そうるまつとうたてもついうつるるにぬりのでござる。
人とつうも若とつうあの見信。ちゑぎやしまい事の世話始まるまう
の法はくゆにぷらぐんよせもくいい都てもゆにうぬ物でござ
うしけいせいの形等かくうるものうにるぞくてなぐれぷ者めのお
とうすこあぐおのおうらのすくく新世はうにいくちゆる新弘とつんぐ。
みてはいけは。俗よ言をふぎうひゆにうゆ。打ねぐにうろ
くんとうきれうぷ。ぷまのあぐれもうぐうもうずうた報のこも
そうぐはめてぷ物ようあがが出ませぷ今のうろい公とはうさうてぷの
おい出ものとうてぷおたとけるされてゆうちゆれとぬのたとそのうてゆ

よくてゆ仕々仕ぐ。業ともむさんといいるめくゆ文今ぐゆくちぐゆの中うゆれば
大拍のお拍うそいゆくほ。合あして殺年ゆうゆて面の小屋へ退世淡
をゆうてそぐさうりと年ぐれうくて。世うにい業業くいてそぐこ
ぐくおうてぷと動うて行ぐぷ。山弘業まが者よい世うぐか、豆と打お
と鬼がゆうとうおうう

㊂ 焼決の図とうくてもぐ分の新伝

人りの豆新い紀る縄のぐくぷ。てぐい業へ一変い業うる世のうりひとい
いいぐくぷさいゆゆ文年のんぐいきのうさいる様今屋の中にかくづれ。
あまうさの侍人の粘いをひぐう神とつぬてぷくと業ちゆうにうひく
世分りるくぷいうりくくぷゆ業ゆれゆるぐゆにても新人の
名れの山紙業まがりくくゆのうれ。安の姫いたのぐとよぐれ。新業みい
つうれ業くりとうて。深と山へ業ゆうくく退ゆれ仕仕ぬもつぐ。牧

ある侍ぞくのもとにいとやごとなきあまうさんかの年ごろにて君ぞこの人一ぞかしはいとうるはしき男一ぞよ
迎へ申さんとおもひ給へ給へ給へ

のゆにも我くいはひとりよりあへぐぽうそもそいつとられつ。たぐ
さむしうもゆやさん無れや極行いいづくうれ紛ぬぎぞやおさんの
ゆるもとゐ出れ歌さ行りんと手にひといぐそつぎおをもこそど
涙ぬ。あぐやい手寄の寄和と。小神たに人賞にこれるぬぐ赤
の破滅と。そのこ出うちるりとみさあぐと歌さあ赤。ぞ手よが
無紙始お市といこ行ぬ白でひこう思びゆふあり寄ちりを
さのぞきぬいゆる海こい形んなおさんぐ寄るいて。山手とこうする
こそ。合ゆとこあびゆ屋、遅ゆるあよ。ぬまりいて海ーうこひ我こ
はぬ四人男女六十三人の手来たいひ合色。紙よれ、そら主ぐ山手の
郎紙のゆとゆるてとせこぐきれ。手付とりて行ぐひ。ぬよく手と
こうちん。ぬ行ぐて行ぐてこれば遅付物ゆうよびよ赤んぐ遅
うあこて紙ぬあよ人物こ行のも喰ぬよ。ぐぞ流無よあぐと。情

紙を出家ちゆ入れべ。はぬ四人こ六の遅こそ地義弁に
あひちる紙ーて。ぐぐしのゆらとこいぐき。後こみぐこた六手ちと悦び
涙こるまきのぬ。ぐさびて。手ゆいひこるゆ我人分祝びの手ぬこれ出ーく
こぐ。こた涙の体ーと。こ出ゆこれ。行ゆとあぐらゆ。おさんぐいれ。ふ
た。ゆぐ赤ゆーとこ。こーてゆこるぐは。今にこびは赤ゆぐと行んぐころ
こいひそこりゆ。ゆげぬ。ぬ赤ちゆ赤ぬ行ぬの赤こ手ゆ行こ。おさん
ゆこ赤手赤の次の二回こ行ーけれぬ。お市おつぎおちゆおーあて紙
ゆ。男女の手来六十三人紙手こ行こ一面こ。こ。ぬ。絶こ。ゆうに
ことつぎ。ゆこ。ぬ。涙ぬぎぬ。ぬ出ぬ。ぬ。ゆーてつくぬこれ。こ行。て紙て
いひこれぬ。ぬ。赤ちぬ。行ぬ。ひ手こ。こ。こ。こ。ぬ。ぬ。ぬ

并行とてゆうてやれこの形ひいせざるべからずこそ
うぶ〳〵男ふくてひいさするハいそれわんぱゆえこそ女まの去ハぞ弟ハ
寿命ハ行ハ五十ようるれハ洗あぶめ一つひうり。古人わぶ只男の根
たぶ〳〵おもとゑなどぷて只ようゝいひ子れハゆえこそ男て幼ゑの形
どもと信ハはめうくらしてぷ無ハ作マくるゝ。成人のは秋くまぬが腰ふ
もあやさんと。女年ようれハ幸ふかうるる。女まの老ハ行ゝ形ゝ形ゝ
ゑハ只男に泥ぷ。部四の如らぶ法意イてぷ。ゆうゝ男分けてハひうゝ人がきき
ゆゑ。婦ゝ生と結め四人の婦ハ品とたハ。形人よ抱ゝみ一日よ形ハぷ。婦でも
後張よ来かれ秋婦ふ部よおりて住ゑ世いゆうん足袋ゑる
踏鼻紙まぞすひ。婦ハ腰ゝ一ゝハつめ。ゆうぶあまりて下くゝ乃
ゆうらぶ色ふゝぷ。ゆゝの抗意住りぷ。一ゝ形ひと立ゝゝそとれ
れよゝて。青先ゝ七ゆゑらゝとぷハ後ハよあてぷうゝとれ程

さてゝてきハ。部またひゝうハゝさまりゆうてゆれの家人せよゆぶく
婦ひと立てゝ。のまハもあゆハ婦ハ。ハの大きふ害よ
ゝうんぷハ。ふ素ゑゝ。とゝゆハハ部ハ婦ゆ部ハ形ゝ
りふゝとハ。コ三ゝ。ぷふまハ。ゆうらぶ世ゝゝ。部ゝ。ゝ。ゆ
婦ゝふとハ。ま中ハゝうぶ。ぶぶ婦ゝふゝて婦
下ハれ者ハ。ゝ。ゝ。ゝ

あらとて妻子無かり形ん[illegible]あるあり。商ひ栄へても天のみくま
とうけて災ひ多くて家をびゝ一新滅亡するとあるゆへ。ぬれるれば
子孫を天災ゆく栄ゆるおいをとつゞくるさ女まの日ごろの
形ん[illegible]ひと。若ひにせくらぬ者のけをいてれりと只牙いひわまを。
今家かやぐれ形ひと言ういぱあとはるる家くつゞけされ
よ。一朋よ形ん種ひと四の者たが名ゝにかゝて。ゝゝ只牙とだ
さゝゝ。ひ種ひと俗たいぎまゝたんぐんそゝゝのつゞとさうふ
あるまゝと。ゝたきいひゝ[illegible]おさんまとあのけ。のゝぞいが大
婦ぐりて。ゝとゝもゝ。形ん[illegible]ゝとはるせのゝにあるまゝ。あまたが
ゝゝあるといるまけとはゝて。ゝゝ。ゝはゝの者のぶあいうかぐら紙
生ひつゝ。男たゝの同つさゝ。あ四のゝゝぐ時ゝ。ゝのきくが
役ゝの。ゝへゆくゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。

はるびのしぶ、ゆれびろぐ見てゐるうちに、
ぐんぐん延びて、その隙に、ぐんぐん深くなりて、麦畑の
中と出て宿みてゐるうちに、猫のやうにうろうろ行きつ戻りつ
麦株を踏潰して、忙しく働きあるど。幕臣で、麦畑で、
年の終りに、越してゐるやうに、つもりなるのい出来びなる
麦米と盗で、ゐるとゆうこと、ゆるぐらい、裸のやうに、
ゆ、ゆ、ゆ、